NEZASU

教育研究所ニュースレター　No.8　1994年1月

発行：神奈川県高等学校教育会館・教育研究所　〒220　横浜市西区藤棚町2－197　電話：045－231－2546

神奈川県高等学校教育課題研究協議会 第２次報告に対する見解

神奈川県高校教育会館教育研究所

神奈川県高等学校教育課題研究協議会は、12月25日に第２次報告をまとめ、発表した。
その内容は、高校入試だけでなく、今後の神奈川の高校教育政策にも大きな影響を与えるものと思われる。
そこで当研究所では、とり急ぎ第２次報告に対する見解を以下にまとめた。ご検討いただきたい。

１．報告の特色

神奈川県高等学校教育課題研究協議会（以下高課研という）が出した報告書の大きな特色は次の点である。

・特色ある高校づくりにあわせて入試を全県一律のものから学校によって違ったものが実施できるようにする。具体的には推薦入試の拡大、学力検査において、教科による傾斜配点、実施教科数の変更などを導入することなどが考えられている。

報告の基調は、ここ10年ほどの全国的な状況とぴたりと符合している。1984年に文部省が「公立高校の入試は同一時期、同一問題で実施する必要はない」「特色ある高等学校の学科等については、可能な限り広い範囲から受験できるようにすることが望ましい」などといった通知を出して以来、全国的に教科による傾斜配点や推薦入試などが広がっている。また、学区の拡大や総合選抜の取り止めなども進んでいる。

文部省の通知に沿った入試の改革が全国的に行なわれ、神奈川もその流れに沿ったプランを今回提示したということができる。

２．高校入試改革の焦点はなにか

文部省の中央教育審議会（第14期）は、「学校間の『格差』あるいは『序列』は、現在、学生生徒を偏差

値によって区分けし、国民の多くに抑圧感情と閉塞感情を与えている」「日本の教育の病理のいわば最大の問題点である」と言い切っている。（審議経過報告1990年）私たちも、高校間格差こそが一番の問題だと考えている。高校間格差は、いま単なる学力差をこえて経済的、社会的格差になっている。家庭の経済的、社会的優位が高校入学に際して有利な条件になっているのである。そして「ランクの高い高校」に入ることが「良い大学」に入るための必要条件だと考られている。私たちは、高校入試の改革は、この高校間格差にメスを入れ、少しでも是正の方向に向かうものでなければならないと考えている。

高課研報告書は、高校入試および、それにつながる高校教育の問題点を次のようにとらえている。

・これからの高校教育は多種多様なものでなければならず、多様な生徒がそれぞれの個性に応じて選択ができるものとしていくことが重要である。

・神奈川県では、専門コースの設置、単位制高校の計画など「特色ある高校づくり」をすすめてきた。

・ところが、高校入試は一律５教科、同一問題の「一元的、画一的な尺度」による方法がとられている。高等学校に序列がつけられ、様々な問題が起こっている一因には「一元的、画一的な尺度」による入試がある。

報告書は、公立高校が「特色が薄く、画一的」であることが第一の問題で、公立高校が特色を持ち、入試がそれにあわせて変わっていけば高校間格差も是正の方向に向かっていくと考えているようだ。

３．高課研の改革で中学や高校はどうなるだろうか

現在、中学校は学習成績や２年のア・テストなどによって日常の学校生活が受験体制に組み込まれ、中学校生活が重苦しいものになってしまっているという批判がある。これに対し、高課研は、高校が特色を持ち、その特色にふさわしい生徒をいかに選抜するかということ、つまり全体として入試に関する高校側の裁量を広げようとしている。多少乱暴な言い方をすれば、これまでは日々顔をあわせていた人に選抜されていたのが今度からは一度も顔を合わせたことのない人によって選抜されることになる．どちらが良いかは人それぞれであろう。ただ、今までよりは選抜の基準が中学生には不明確になるので不安は大きくなるのではないだろうか。

個性化を求められている高校はどうなるだろうか。中学校三年生の多くは、自分の将来と個性を見すえて高校を選ぶほど進路意識が成熟しているわけではない。そのことは中学生を持つ父母や現場の教員なら知っていることではないだろうか。皆が行くから行く、高校が国民教育機関になったということはそういう事ではないか。

一方、神奈川県の高校生の大学進学希望率は50％を越えている。少なくとも半分以上の学校では大学受験との関係で「特色」を出すことを考えることになるのではないか。進学者の多い学校では、多くの生徒が放課後予備校に通い、３年の12月ともなれば欠席者が極端にふえる学校も少なくない。これも現場の教員なら知っていることである。こうした中で大学受験と関係のない「特色」を出せるわけがない。

可能性があるとすれば、大学受験とはあまり縁のない一部の学校で、生徒の実態に即した「個性化」を検討するところがあるかもしれないといったことぐらいではないだろうか。

つまり、中学校では学力テストを軸に一層競争が激しくなるであろうし、高校ではなんとか大学受験のために有利なカリキュラムを組もうとする動きが強まるであろう。高課研が言う多様な入試が実現したとして、最大の問題である高校間の格差と序列が是正されるとはとても思えない。

４．高課研に報告の再検討を求める

高校間格差は神奈川でも深刻な問題になっている。大学の入学試験、企業の人材登用システムなど広範な問題にも関連があるテーマである。高課研には、このテーマの持つ深刻さに対する認識が欠けているのではないか。「個性化」などといっても現実にはカリキュラムのちょっとした手直し程度の事も多い。そんなこ

とで本当に格差と序列の是正につながると思っているのだろうか。

「個性」ということをいうならば、なぜ、生徒は入学者選抜に際して自分の「個性」にあった選択を迫られることになるのだろうか。「選抜」されてしまうときにどうして「選択」が可能になるのだろうか。高校入学という中学生にとって大変なプレッシャーのかかった時などではなく、もっと多くの機会に、もっと自由に選択が可能になるようなシステムを考えるべきではないだろうか。報告書は本当に生徒が学校を選べるようにと考えているのだろうか。むしろ、高校が、自らの特色にふさわしい生徒を選べるようにと考えているのではないだろうか。

高課研では「公立高校離れ」についても論議になったようだ。「受験に弱い公立高校」の挽回策として今回の報告が考えられているとすれば、公立高校のランクアップを計ろうとするだけの、改革の名には値しないものと言わざるを得ない。

新聞報道などによると、高課研は隣接学区から志願できる枠を広げるなど事実上の学区拡大を考えていたといわれる。もし、学区の拡大が行われれば学校間格差は一層広がっていくことになる。全国的な学区拡大の状況を考えれば、高課研が報告書でその事に踏み込んだ結論を出していないことは評価したい。

神奈川県は、全国的に学区の拡大が進む中で地域に根差した検討によって学区の縮小を計ってきた数少ない県である。文部省が方策を示すと、遅い早いはあっても全国どこの県も一斉に同じ方向に行くという画一的なやりかたを改め、なにが問題かを真剣に見詰め、時流に振り回されることなく、再度検討に着手されることを期待したい。

資　料

報告の概要

＜入学者選抜制度改善の基本的方向＞

★　特色ある学校づくりや職業学科の学科改編に応じ、多様で弾力的な選抜方法を考える。それによって目的意識を明確にもっている生徒の希望に応え、中学校の進路指導に役立てる

★　選抜資料については、現行のものを見直すとともに資料の多様な取扱いを可能にして受験者の個性や優れた点を積極的に評価できるようにする。

★　学区ごとの高校受入れ率の不均衡、生徒が高校を選択する際の選択幅の確保などのために学区外志願、志願変更の制限などについては弾力的に扱う。

＜入学者選抜制度の改善策＞

(1)　調査書

中学校の指導要録の改定に対応して、指導要録の「観点別学習状況」や現行調査書の「特記事項欄」の記載内容の取扱いについて検討する必要がある。

中学校第三学年の資料は従来通り重視していくことが望ましい。

(2)　学習検査（ア・テスト）

今後、学習検査の結果については選抜資料とせず、本来の目的に添った活用をはかることが望ましい。

(3)　学力検査

・特色ある学校、学科、専門コース等においては、その特色に応じて実施教科数を弾力的に扱ったり、その特色に応じた特定の教科に対して傾斜配点をするといった方法などを導入できるようにすることが望ましい。

・定時制では、実施教科数を減らすのが望ましい。また、一般社会人の受験に対応するため、学力検査

に変わる選抜方法として作文を導入するのが望ましい。

(4) 選抜資料の比率について

調査書から学習検査の結果を除き、調査書と学力検査の均衡がとれるようにすることが望ましい。

(5) 学校・学科・専門コース等の特色に応じた多様で弾力的な選抜方法

①推薦入学

特色ある学校・学科・専門コース等については、現在導入されていない商業と外国語を含めて推薦入学を導入することが望ましい。推薦入学の定員の拡大、推薦入学の実施時期を早めることも望ましい。

②受験機会の複数化

受験機会の複数化や、受験生の希望により第二希望校を認めるといった志願のあり方などについて積極的に検討する必要がある。

③学力検査等について

・特色ある学校等においては実施教科数の弾力的扱い、特定教科に対する傾斜配点をできるようにすることが望ましい。

・実技検査を必要に応じて実施できるようにすることが望ましい。

・現行の全日制専門学科での実施に加えて面接を必要に応じて実施できるようにすることが望ましい。

(6) 選考方法

第二次選考の比率等を見直し、各高校が独自で決定する選考方法をあらかじめ公にして実施することが望ましい。

(7) 学区外志願

学区外志願の枠の扱いなどについて検討し、臨時的に行なってきた特例校措置を解消することが望ましい。

(8) 志願変更

従来認められていなかった、専門学科間、専門学科・普通科間の志願変更、学区外からの志願者の志願変更をできるようにすることが望ましい。

専門コースについても同一校の一般コースとの間で第二希望を認めるようにするのが望ましい。

（本見解、報告の概要についての担当は永田裕之）

教育研究所だより

研究所では、現在、高校入試の問題を中心に研究討議を行なっています。ねざす13号は高校入試の特集になります。10月16日に行なわれたパネル・ディスカッション「今、高校入試を考える」の内容も掲載されます。

パネル・ディスカッションで挨拶する杉山代表